

皆さんこんにちは。

今回もセブ島在住、担当濱野からプルメリアの会報をお届けします。

実は、今回の会報は都合により、通常より約1か月遅れの発行になっておりますが、この原稿を執筆しているのは、子どもたちの夏季休暇も既に終盤に差し掛かり、昨日は母の日、本日はフィリピン全土でのバランガイ（フィリピンの最小行政区）の選挙の為、国民の休日になっているというタイミングで、私も会社での勤めがないのと学校もお休みなので、久しぶりにゆっくりと時間をいただけました感じです。



1. 【選挙と禁酒令】

さて、今回のバランガイ選挙のみならず、フィリピンにおいて各種選挙がある時には、その投票日前日と当日には禁酒令が発令・施行され、各所での酒類の販売・提供禁止が試されます。但し、外国人が主要な客層となる、例えば日本食レストラン等では余り厳格には施行されず、あつて無きが如くの対応になっています。

但し、普通のローカルレストラン、街角のサリサリストアと呼ばれる万屋（よろずや）、コンビニエンスストア、スーパーマーケット他では、この2日間、売り場にカーテンなどがかけられ、「Liquor Ban」（即ち禁酒令）の表示が為され、酒類の購入は一切できません。それ故に、どうしても飲みたい向きには、その前日までに酒類をまとめ買いして自宅に抱え込むというような現象も見られます。要は、外（特に公共の場）での飲酒を禁止するのが、この法令の目的であり、自宅にあるものを自家消費する分にはお咎めなしなのです。

しかし何故こうしたものが施行されるのかと言えば、選挙前日と当日に対立する陣営の者たちが酒に酔った上での喧嘩、引いては殺し合いを未然に防ぐ抑止力を狙ったもののようなようです。それに合わせて今回の選挙に至っては、ここはアメリカ並みの銃社会であるにも関わらず、銃の持ち歩きすら、禁止されている状態です。

銃器の持ち歩き規制については、実はかなりの合理性があり、それは、取りも直さず、ここの選挙戦は激しい利権の争いでもあり、議席を取るか失うかは死活問題にもなり得る為、それに伴う殺し合いも、これまで度々起きている（…すでに今回の選挙の前哨戦でも実際に起きております）為です。

こうした状況は、やはりここの社会が先進国レベルには至っていない事の証左です。

2. 【セブの現状の治安レベル】

今回は私のブログ (https://blog.goo.ne.jp/cebu_plumeria/e/68a8d45649439d905f2017b3248b045a) で触れた事を再校・掘り下げとなりますが、現大統領が就任して以来、麻薬の取り締まりを強化し、そうした不逞の輩の粛清が進んだ半面、他の犯罪分野の治安改善は、未だ実感されていないというのが現状です。

例えば、ここでは釣銭詐欺が横行し、タクシーなどは特に乗客が外国人の場合、釣銭を出さないのが当たり前のように振る舞う運転手も少なくはなく、釣り銭の事を聞くと「細かいお金の持ち合わせがない」…などというのですが、これは半分は本当で半分は眉唾です。これに対してもドテルテ大統領は、釣銭を出さない者に対しては罰金刑を処すと宣言したのですが、恐らくドテルテ大統領も麻薬問題に精いっぱい他に手が回らないのでしょうが未だにこれは有名無実です。



それ故に、私も安全性他、各事情によって工業団地他へ出かける際にはタクシーを主な交通手段にする中で、日々、出来るだけ細かいお金を釣銭の要らぬように、可能な限り手元にキープするようにしています。しかしながら、こうした事が起こる背景として、銀行と言う主要金融機関ですら少額のコインや札の準備が十分にされないという体質があります。

例えば、私は日系企業の仕事に就いていて経理の一部を担当しており、小口支払い準備の為に釣銭を用意するために取引銀行の窓口へ行って、朝方一番に 20 ペソのお札 (100 枚単位 : 200 ペソ = 500 円弱) の両替をお願いしても「ありません」…とあっさり断られてしまう事は 1 度や 2 度ではありません。

要は、ここは純粋な資本主義社会である為、銀行も地域社会の経済発展の担い手という意識は、ほぼ皆無であり、直接的に儲けに繋がらない事については無関心なのです。銀行ですら、この体たらくですから、ファーストフードへ行こうが、コンビニへ行こうが、スーパーへ行こうが、釣銭を得る為に少し大きめのお札を使おうとすると、2 回に 1 回は、「もっと少額のお札はありませんか？」

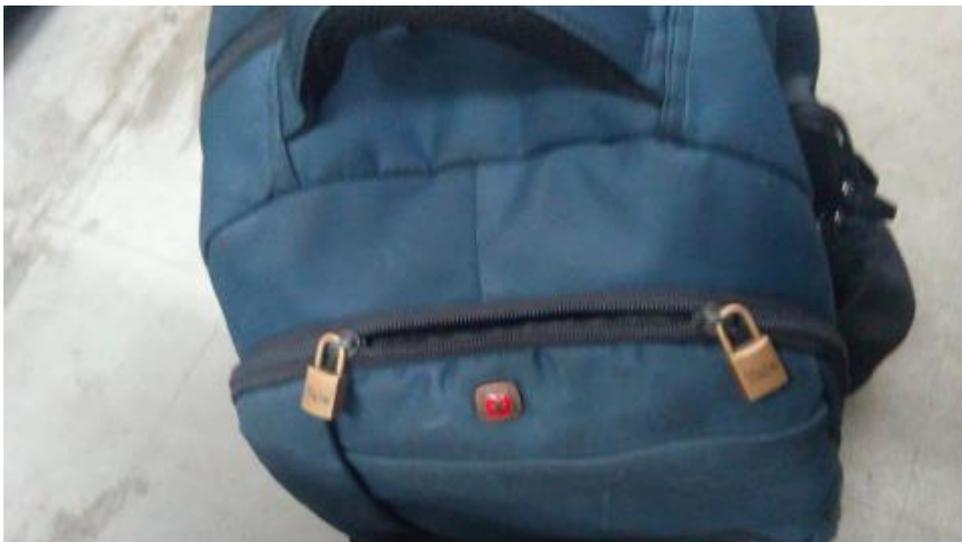
…と聞かれるのが現状です。しかし、こちらも無償で両替をしてくれと言っている訳ではなく、必ずしも、その時に必要とは言えないものでも買って、タクシーの乗車とかに備えようとしている訳なので、例え、手持ちがあったとしても、「ありません」…と言うしかありません (苦笑)

少し話が逸れましたが、実はこのタクシーとて、本当に言葉も分からなければ地理も分からないような観光者レベルの方にとっては、本当に安全な交通手段とは言い難く、もし悪質なドライバーにかかったなら（大ざっぱに半分は質が良くないと思ってよいでしょう）何も分からない乗客に対して法外な吹っ掛けを行う事も良くある事です。

また、最近実際にセブ市周辺で起こった事ですが、あるタクシーに乗ったフィリピン人の乗客がメーター読みで60ペソの料金を払うために100ペソ札で支払おうとしたら、そのドライバーが、釣りが出ないと言ったのでトラブルになり、殴り合いの喧嘩となったが乗客の方、殴られどころが悪かったようでその場で倒れて亡くなったそうです。本当に切ない話ですが、この乗客、日本円にして100円未満の事でトラブルになって命を落とした訳です...

私自身も、最近、タクシーの料金が高騰し、（今年3月期までと比べて3割強増し）更には、長距離、或いは渋滞の中を通るコース（…と言って、今やセブ市の周辺で渋滞無で通行出来ることは寧ろ稀です）を通る際の連中の吹っ掛け（要はメーターを使わず、通常の数倍を請求するとか）に対する交渉他に嫌気が差し、歩ける場合には少しでも歩こうとか、裏路地ならば、サイドカー付きのバイクに乗ろうとか等々、対策を打って来たのですが、実は、こうして安上がりにしようとすればするほど、リスクも高まってゆくのだと言う事を再確認する事態に遭遇しました。

それは冒頭に挙げた私のブログにリンクした記事の内容ですが、簡単に言うと、数百円を節約しようと思って夜道を歩いた結果、携帯電話をすられて、1万円以上の被害を出してしまったというものです。



（ スリに開けられたバッグ ）

フィリピンで特例的に安全と言われるセブであっても、やはり日本とは格段に安全に気を遣い最低限の注意と備えをして、時には必要なコストもかけてやっと安全が確保されるという事を常に頭の片隅に留めておいた方が良いでしょう。それは目にも見える形でも歴然としており、各施設のエントランスには銃器を備えた警備員が立ち入場者のボディチェック持ち物検査をしていますし、それに中流以上の家々には高い塀と頑丈な鉄製ゲートで守られているという状況があります。日本でも最近、治安が悪くなったとの情報もありますが、ここに述べたような状況にまでは悪化はしていない…と思います。

3. 【セブでの生活コストは？】

これまでもこうした話題について触れて来ておりますが、セブでの生活コストなども、先に述べた安全面も含め日本のそれと比べた場合に必ずしも「安い」とは言えない状況になって来ております。

例えば、この会報を書いている今現在の東京卸売市場価格を調べて見ますと、キャベツ 1 キロ当たりの値段が 90 円前後でした(日本も冬場は白菜やレタスなども高騰した様ですが)。その同日に私の近所(セブ市内)のスーパーでキャベツの値段を見ました所、1 キロ当たり 60 ペソ (1 ペソ=2.1 円で換算すると 126 円) となっています。これはセブでも今夏、葉物野菜の生育に適した気候であった影響で、こちらでも高い時に比べれると半値程度なのです。

勿論、卸売り価格とスーパーの店頭価格には違いがありますが、こちらの一般労働者の標準的な賃金が、1 ヶ月残業込でも日本円にして 22,000 円程度である事を考えると、所得に対して生活必需品が異常に高価であるという事をご理解頂けましょうか。恐らくセブの卸売り市場まで出かけて行けば、スーパーの半値程度にはなるでしょう。しかし日本の卸値と比べて、3 割ほど安いというだけです。



日本人が日本食を中心とした食生活を送ろうとすると、味噌醤油、味醂等々の日本の調味料は、ここセブでは日本国内の価格の倍程度の取引価格になりますし、電気料金、水の料金も、日本の平均値よりも高くなる感じですので、もし日本並みのスタンダードで生活してしまったら、現在ではセブの生活の方が高くつくかも知れません。因みに私は日本で言うお風呂には日本に帰国した際に入れるのが大変に楽しみなのですが、普段はセブのスタンダードで、大きめのゴミバケツのようなプラスチックの樽に水を張って、そこから手桶を使って、水を被るという簡易シャワー(?)です。



そんな訳で、以前には、退職後の引退・老後生活はセブ島でもって年金だけでやっていける…という様な事も言われましたが、それも今は昔... 10年前までのお話となってしまったとご理解頂いた方が良いでしょう。

しかし、こうした事を書いてゆきますと、それでは、セブの庶民、或いは里子たちはどうやって暮らしているのかとしたお話になるかも知れませんが、その実、日本人には想像を絶するレベルであり、辛うじて冬が無いから死なずにすんでいる…に近い状態です。

先の市場価格の例でも述べましたように、キャベツ程度と言っては失礼かも知れませんが、庶民の収入レベルでは、それですら、おいそれと口にする事は出来ず、結果としてカロリー摂取は出来ても栄養失調気味で、その結果、乳幼児の死亡率も高い事が相まって、平均年齢は 60 歳前後から中々のびません。



4. 【卒業生の動向】

おかげさまで、今春も 4 名の大学卒業生を輩出する事が出来ました。実は、日本とは異なり、ここの大学生諸君は、卒業前に就職先が決まっているケースは、ほぼありません。通常は、卒業してから就職活動を始めたり国家試験他の試験対策コースに入って国家試験の準備をしたりとした形になります。それ故、プルメリアでは原則、就職活動への援助として卒業後半年、9 月期までは彼ら卒業生を奨学生として扱います。

場合によっては国家試験対策で 1 年以上を要する場合もあり、そうした場合には、国家試験対策が終わるまでは、サポートを継続します。昨年の場合、非常に珍しいケースで、6 月期位までには、就職を決めた奨学生もおりましたが、今年はどうなるか、この時点ではまだ何とも言えません。

5. 【OB,OG たちとのコミュニケーション】

ここ数年フェイスブックがフィリピン人の中では非常に高い普及率で、その影響の中でプルメリアの前身の団体、或いは前身の団体からプルメリアに移行した初期の元奨学生から私にコンタクトして来るケースが相次いでいます。以前から把握はしておりましたが、プルメリア（或いは前身の団体）での標準をクリアして大学を卒業した子たちについては100%の就職率があり、全体に優秀な部類に入るプルメリアの出身者の中でも、更にとびぬけた存在については、海外へ流出しているケースも多く、分かっている限りでは、卒業生全体の4割弱は海外で職に就いている感じです。

そうしたケースでは、以前は、通信手段がなく、海外へ出たと言う話は伝え聞いても、その後、どうなったかとした状況は分からなかったのです。ところが最近、前出のフェイスブックの拡散に伴い、そうした子たちの一部から私を検索して、コンタクトしてくれるケースが増え、彼ら、彼女らの動向が分かり、非常にうれしいケースが多いのです。下記はその中の一例で、元里子（奨学生）が写真に添えて、送ってくれたメッセージです。



It was taken last March 2004. ☺ I really thank you and your team in helping me and my family to get out from poverty through helping me educating myself and more especially that time when my brother had an accident that almost killed him when he was 5 years old and that medical support you had given me helped him survive that time! You and your team were really a blessing to poor kids like me who has big dreams! Thank you so much really and best regards to your wife and kids!! ☺ I still remember her too when I went to your house during that time when my brother was hospitalized! Thanks so much again and again!! ♥ （メッセージ原文）

この写真が撮られたのは 2004 年 3 月の事です。私は、あなたとあなたの団体が私と家族を貧困から教育支援を通じて救ってくださった事、それに、当時 5 歳だった弟が事故に遭って死にそうだったところを助けて下さった事に心から感謝しています。そして、かれは生き延び、今でも元気です。あなたとあなたの団体は、嘗ての私のような貧困にあっても大きな夢を持つ子どもたちには大きなご加護です。本当にありがとうございました。奥様、お子さんにどうぞ宜しくお伝えください。私は、あなたが、私の怪我した弟が入院する為の支援を受け取りに、あなたのお宅を訪問した際に、奥様にお目にかかった事をよく覚えています。本当に本当にありがとうございました！！

…というメッセージでした。

こちらもこれを受け取って、歳を取ったせいかも知れませんが、何だか泣けて仕方がありませんでした。

この子は現在 30 歳になり、ドイツ人の配偶者をもって、ドイツで暮らしておりますが、彼女の地元のマクタン島の貧困層にも利用できる健康保険と低金利の金融業の協同組合を立ち上げ、地元社会に貢献しようとしています。(今度帰国する時に会う約束をしていますので、とても楽しみです)

この子を支援した当時は、フィリピンの物価も安く、日本の経済も不安なく日本円をフィリピンペソに換金した時の額も現在より大きかったので、同じ資金額でもその支援はかなり手厚く出来たのです。



今は、世界や日本、そしてフィリピン国内の経済状況も変わり、なかなか当時の教育支援イメージのようには行かないのですが、こうして日本の皆さんの支援で育った子ども達が立派に成長し、より自分の能力や才能を生かせる海外に出ただけではなく、自分の出身地であるセブの地域社会に貢献してくれる子が出て来ているという事を励みに、今後も出来る限り頑張っってゆこうと思います。